

大阪湾再生行動計画

平成16年3月26日
大阪湾再生推進会議

・ 行動計画策定の背景と位置付け

1. 行動計画策定の背景

- 水質汚濁が慢性化している大都市圏の「海」の再生
- 「大阪湾再生推進会議」の設置
- 大阪湾再生のための行動計画の策定
- 汚濁負荷量軽減に一定成果あったがさらに削減必要
- 蓄積された環境負荷について、取り組むべき課題
- 「市民と海との新たな関わりの構築」を具体化

2.行動計画の位置付け

(1)目的

- 水環境改善に向けた課題が多く残された大阪湾
- 総合的な「海の再生」のための計画を策定
- 住民・市民やNPO等の多様な主体との連携、協働

(2)具体的な内容

- 大阪湾再生に向けての湾全体の目標の設定
- 湾奥部を中心とした重点エリア・アピールポイント等の設定
- 目標達成のための陸域負荷削減策、海における環境改善対策及びモニタリング（監視）の実施

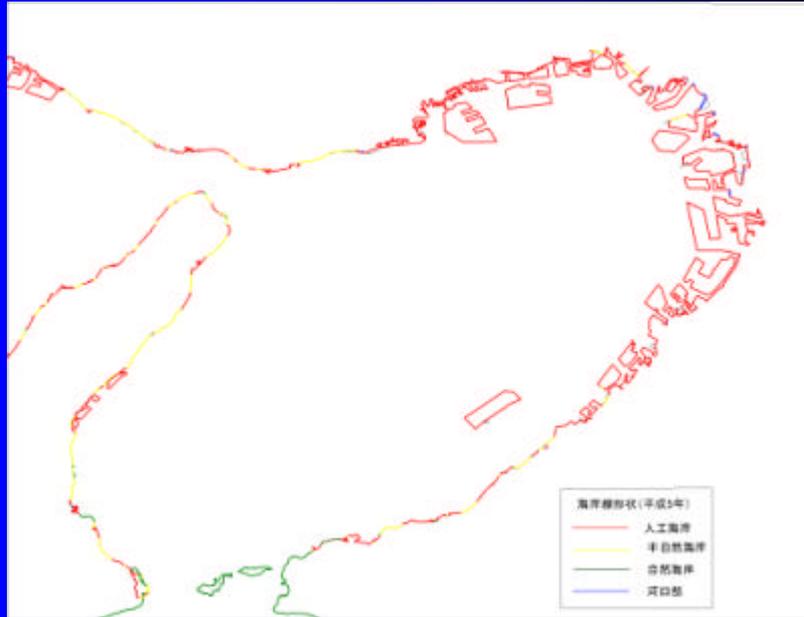
大阪湾の水環境の現状

大阪湾の集水域

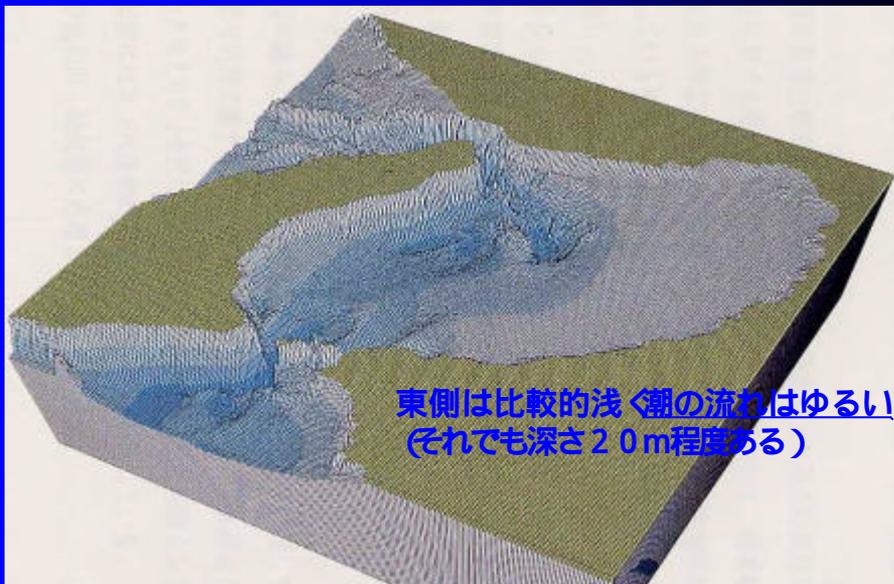


- 大阪湾集水域
- 府県界
- 河川

大阪湾の海岸線の形状



大阪湾の海底地形

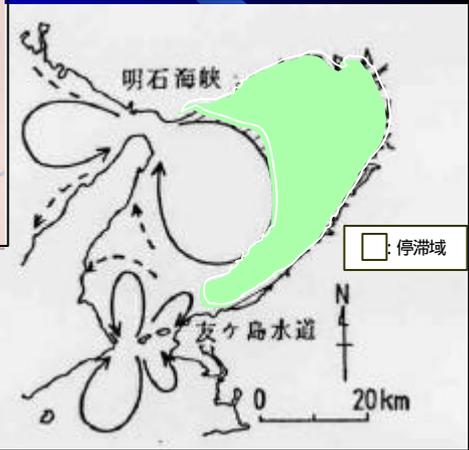


大阪湾の流況

恒流図

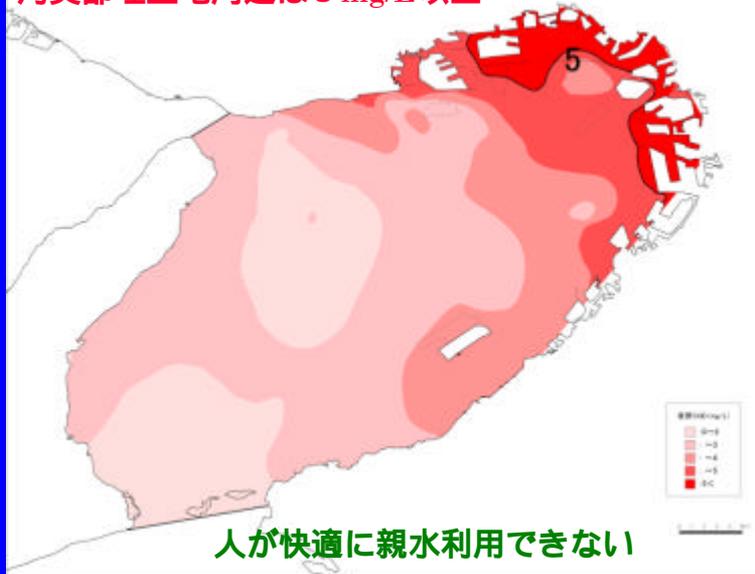


停滞性水域模式図



大阪湾の水質 (表層 COD)

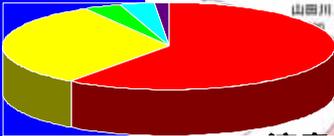
湾奥部埋立地周辺は 5 mg/L 以上



人が快適に親水利用できない

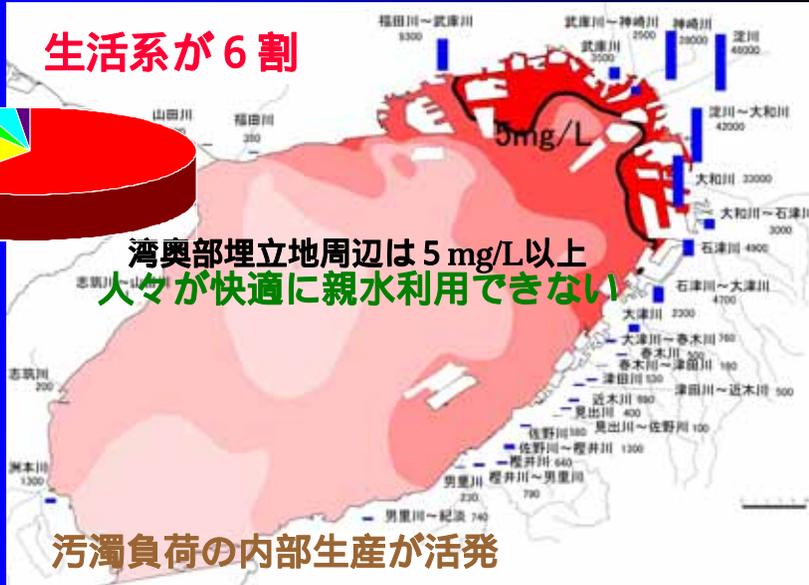
流入汚濁負荷量・大阪湾の水質(夏季表層・COD)

生活系が6割



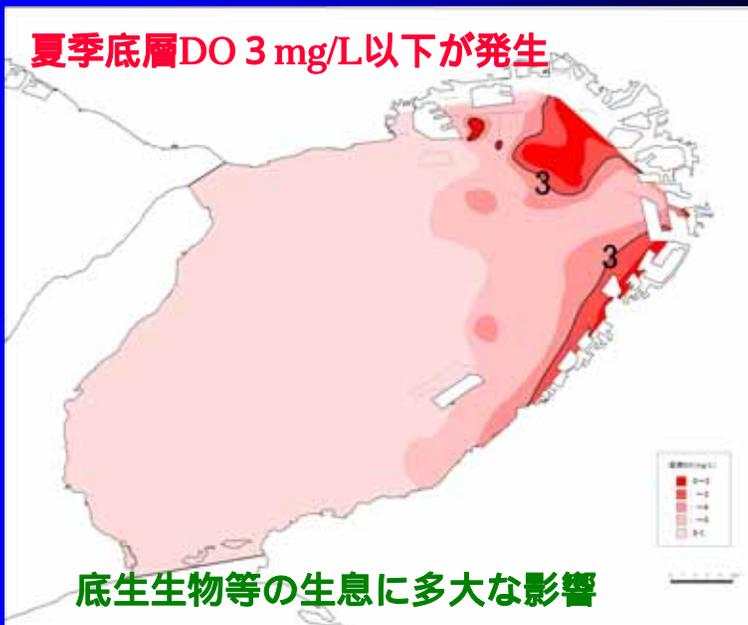
- 生活系
- 産業系
- 畜産系
- 土地系
- 廃棄物系

(参考)
流入負荷量
の内訳



大阪湾の水質(夏季底層・DO)

夏季底層DO 3 mg/L以下が発生



人々と海のバランスが取れていた時代 豊かな生態系の大阪湾のイメージ



人口も半分、陸域汚濁負荷流入も少なく、海の生態系は豊かで自己浄化能力がある状態

陸域汚濁負荷大き く海域は浄化能力低下 汚濁負荷を内部生産している大阪湾



人口倍増、陸域汚濁負荷増大、海域で内部生産、夏期貧酸素水塊発生、魚類、底生生物は生きられない。海底にはヘドロ。生態系は貧弱に。合流式下水道では、雨天時未処理水放流。浮遊・漂着・海底ごみ。直立護岸、市民は海から遠ざけられ、埋立地には低・未利用地が発生

大阪湾再生に向けての目標

大阪湾再生に向けての目標

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭（なにわ）の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する

関係省庁及び関係地方公共団体等が連携して取り組む中長期的な大阪湾の水環境のあるべき姿を目標とした

具体的な目標及び指標

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO ・5mg/L以上（当面は3mg/L以上）
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟、藻場、浅場等の面積 砂浜、磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD ・散策、展望：5mg/L以下 ・潮干狩り：3mg/L以下 ・海水浴：2mg/L以下 ・ダイビング：1mg/L以下
人々が快適に海にふれあえる場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線 海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ

重点エリア

大阪湾再生の目標は大阪湾全体での達成が望ましい。

大阪湾及びその集水域全体で取り組む

このうち、再生への課題が多く、かつ改善する点が多い「神戸市須磨区～大阪府貝塚市」を特に重点的に再生を目指す「重点エリア」と設定



計画期間

平成16年度から10年間を計画期間とする

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭の海」を回復



人口は依然多く、港はにぎわう。しかし、陸域は各種下水道整備等で大阪湾流入水質はきれい、ヘドロも浚渫等で減り、海域の内部生産低下、夏期の溶存酸素豊富に。人工干潟、親水護岸、海辺の緑等の整備により、豊かな生態系の回復と、人々に快適な親水空間の創出。

・目標達成のための施策の推進

施策の推進方針

目標達成のため、国及び地方公共団体等が広域に連携し、大阪湾の集水域及び海域で各種の改善施策を行い、効果の的確な把握のためモニタリング施策を行う

施策実施に当たり、下記事項に留意が必要
残された貴重な自然環境の保全を図る
防災や魅力ある国際都市としての社会経済活動との調和に配慮する

関係行政機関だけでなく、住民・市民やNPO、学識者、企業等の多様な主体の連携により進める
環境学習の場としても機能するよう配慮する

陸域負荷削減施策の推進（1）

下水道事業（普及：4処理場供用、高度処理化：23処理場、合流式改善等）、農業集落排水事業（整備推進、高度処理）、浄化槽整備事業（単独 合併処理へ転換、高度処理型整備）

陸域負荷削減施策の推進（2）

河川浄化事業（河川浄化施設、浄化浚渫、河口干潟保全・再生）、森林整備事業（計画的な治山・森林整備、工事で間伐材、水質浄化材で木炭・竹炭利用、森・川・海が連携した森づくり）

関連事業、陸域負荷削減以外の施策（流入ごみの削減、ダイオキシン類への対応、河川水質事故の取り組み）

海域における環境改善対策の推進

水質の改善（底泥対策、流れ制御など）
多様な生物の生息・生育
（藻場、干潟、環境改善機能付加護岸など）
親水性の向上（海辺の緑地整備など）
浮遊・漂着・海底ごみの削減（ごみ回収効率向上、漁業者協力を得て海底ゴミ回収、地域住民等の連携による清掃活動など）

大阪湾再生のためのモニタリング

環境監視のためのモニタリング (関係機関連携)

環境改善施策の効果把握 (わかりやすい指標)

市民参加によるモニタリング

(多様な主体の連携)

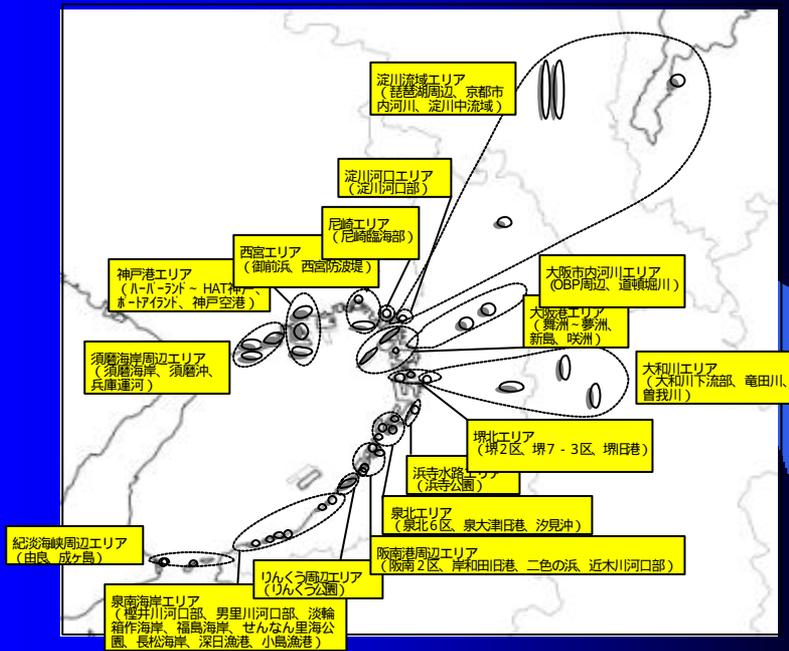
大阪湾における汚濁機構をより詳細に解明するためのモニタリング (行政・学識者連携、貧酸素水塊調査、水質シミュレーションモデル開発)

情報の共有化及び発信 (大阪湾環境データベース、市民にわかりやすい形で発信、関連シンポジウム等での情報提供)

アピールポイントにおける施策の推進

施策による改善効果を、一般市民が身近に体感・実感でき、かつ、広く一般にPRできる場 (実際に施策を行う場所と同義ではない)を「アピールポイント」とし、重点エリア内に限らず、重点エリアの改善や地元住民との連携・協働などの新たな施策手法をPRできる場所に設定

アピールポイント



主な施策の例 : 西宮～尼崎エリア

【現況】

マリンレジャー等が行われるが、水質が悪い
砂浜があるが、貧酸素が発生

工場跡地が低・未利用
地化し、景観を阻害、
人々が近づけない海辺

尼崎の森中央緑地予定地



【改善後のイメージ】

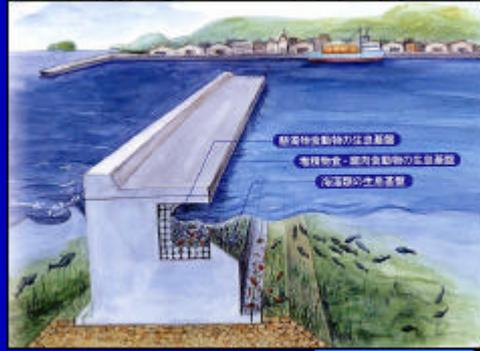
ウインドサーフィン等のマリンレジャーや潮干狩り・散策が快適に楽しめ、多様な生態系のある、阪神間に残された希少な自然海岸
緑豊かで快適に散策のできる海辺

[主な施策]

流況改善、直立構造物の環境配慮型への改良事業 (西宮防波堤)

下水道の高度処理及び合流式改善 (武庫川流域、尼崎市公共、西宮市公共、芦屋市公共)

環境配慮型への改良の例



武庫川下流浄化センター



尼崎21世紀の森のイメージ
(尼崎の森中央緑地)

尼崎臨海地域の緑化 (尼崎21世紀の森 [尼崎の森中央緑地])

尼崎臨海緑地



海洋環境整備船



浮遊・漂着・海底ごみの削減



甲子園浜

【主な施策の例 : 堺北～阪南港周辺エリア】

堺泉北港

【現況】

大和川河口部付近の臨海部で水質が悪く、貧酸素の発生

人々の立ち入り可能な海岸が少ない



【改善後のイメージ】

豊かな生態系を育む大和川河口部での干潟の再生
市民が自然と憩うことのできる海辺と環境学習の場
人々が自然と快適に憩え豊かな生態系を育む干潟の再生と生物環境学習の場の確保

堺 2区
(人工干潟)

堺 7- 3区
(共生の森)



リフレッシュ
瀬戸内



大和川下流部
(瀬と淵方式の浄化施設)

曾我川 (上向流
接触酸化方式
の浄化施設)



プラスチックの接触材は表面積が大きいため
大量の微生物が生息できる

第1層から順に目詰まりしにくい球状・やや目が細かい球状・微生物がより繁殖しやすいひも状の接触材を使用

【実証実験・社会実験の例】

人工干潟創造実証実験 (阪南 2区)

下水処理水の植生浄化実験

(南大阪湾岸流域下水道)

コンブ養殖実証実験・社会実験 (兵寺水路)

人工干潟創造実証実験



下水処理水の植生浄化実験



コンブ養殖実証実験 社会実験



今後の取り組み

1. 行動計画策定後のフォローアップ

- 引き続き、大阪湾再生推進会議などの場において、行動計画の進捗状況についてフォローアップを行う

2. 「海の再生」としての「大阪湾再生」

- 同時に進められる都市再生プロジェクトやその関連施策との連携・調整を図り、総合的に豊かで魅力ある、自然と共生した世界に誇れる都市としての京阪神都市圏の再生に取り組む

推進体制図 (イメージ)

